

農福連携支援者の支援活動の実態と課題

利用対象：行政担当者

- ◎ 農福連携の推進に向け、農福連携支援者の活動実態と課題を把握するため、農業ジョブトレーナー養成講座修了者に、支援行動に関する28項目を自己評価してもらいました。これらの項目の因子分析を行った結果、「直接指導」「ネットワーク構築」「就労環境整備」「仲介」の4因子があると解釈できました。この因子得点を用いて支援者を類型化した結果、4つのタイプに分類できました(図1)。
- ◎ 支援活動の際の課題のうち「農業の知識・経験が少ない」「仕事が忙しく時間が取れない」は4タイプ共通の課題でした(表1)。一方、「活動に報酬が出ない」は多活動型に多く、「障がい者や障がいに対する知識・経験が少ない」は無活動型に多く見られました。
- ◎ 多活動型の支援者は、自組織における支援活動の他にも、他の農業経営体や障害福祉サービス等事業所を対象とした支援、関係者との連携活動にも携わっています。多活動型の支援者に対しては、活動が継続していけるように報酬の検討が必要です。また、無活動型の支援者に対しては農業と障がいの両方の知識・経験がないため、農業や障がいに対する知識習得や障がい者の農業就労支援を経験する場をさらに提供する必要があります。

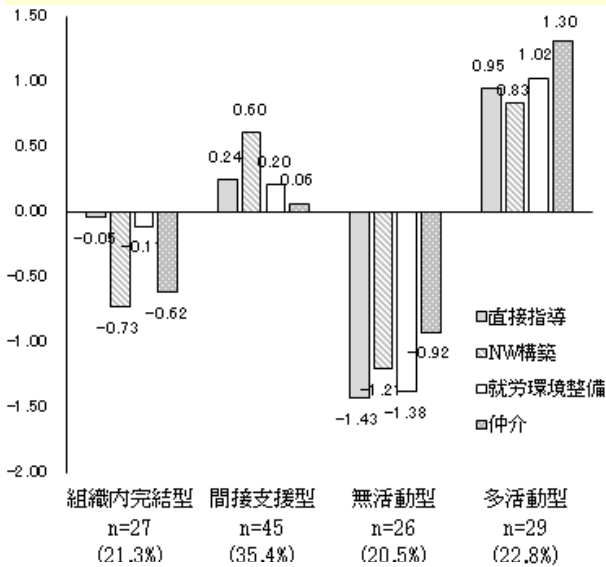


図1 クラスタ分析による支援者の類型

【組織内完結型】 就労現場での支援機会は多少あるものの、他組織の関係者や支援者との関わりは少なく、支援対象の組織内で活動が完結している支援者。

【間接支援型】 障がい者に直接接するよりも間接的支援を行う機会が多い支援者。

【無活動型】 どの活動もほとんど行っていない支援者。

【多活動型】 すべての活動をよく行っている支援者。

表1 支援活動農際の課題

	【組織内完結型】	【間接支援型】	【無活動型】	【多活動型】	n(%)
	27	45	26	29	127
報酬***	3 (11.1)	4 (8.9)	2 (7.7)	13 (44.8)	22 (17.3)
時間	10 (37.0)	20 (44.4)	9 (34.6)	12 (41.4)	51 (40.2)
農業知識・経験	15 (55.6)	24 (53.3)	12 (46.2)	9 (31.0)	60 (47.2)
障がい知識・経験**	3 (11.1)	9 (20.0)	12 (46.2)	3 (10.3)	27 (21.3)

注1) 人数は支援者が課題として選択した項目をすべてカウントした(複数回答)

注2) Fisherの正確確率検定

注3) **P<0.01,***P<0.001

お問い合わせ先	生産技術研究室 地域連携研究課 飯場聡子 電話 0598-42-6356
参考になる資料	https://doi.org/10.7310/arfe.58.157